

2024年度一般入試 A 日程

— 傾向と対策 —

国語総合

出題のねらい

大学生として必要な読解力と文章力、すなわち、論理的文章を読んで内容や論の組み立てを理解できるか、また、それについての自分の考えを表現する力があるかを問うことを目的として出題しています。ある程度の長さの文章を読んで、文章全体の構成や主旨を正しく理解し、設定された問題に応じて自分の意見をまとめることを要求します。年度によって文学史や文法の知識に関して出題することもあります。

出題形式・内容（分野）について

形式はこの数年変わっておらず、3000～3500字程度の文章とそれについての10前後の小設問で構成された大設問が1題というかたちで出題しています。出題範囲は現代文のみで論説文が多く、とくに文化論や社会学・心理学に関連した文章を多く取り上げています。2024年度のA日程では西川明彦氏の『正倉院のしごと』から出題しました。著者は正倉院で長く宝物の保存や修復に携わっていらした方です。本書では、保存・修理・調査・模造・公開のそれぞれに章を立て、「正倉院のしごと」とその持つ意味を論じています。今回は再現模造についての部分から出題しました。基本的な漢字の読み、書き、語の補填の問題から内容を問う問題まで、11問を設定しました。まずは正確に文章を読みとっているかを把握することをねらいとしています。漢字に関しては大学生として様々な文献を読みこなしていかなければならないと考え、高校までの学習範囲に限らず、一般的なものをも含めて出題しています。また、論理の展開を踏まえてきちんと内容を押さえていることを確認するための設問を多くしてあります。問11はこの文章の中心的なテーマでもある「再現模造」について、三つの要素と問題、筆者の考える解決の方向を150字以上200字以内でまとめるという問題です。200字でまとめることは試験時間の中では難しいと感じられるかもしれませんが、最初に問題に目を通したうえでポイントを拾っておき、解答に取りかかれば無理ではないはずです。採点はすべて手作業で行っています。

採点後の感想・効果的な学習方法

「出題のねらい」にも記載したとおり、大学生として要求される基本的な読解と表現の力を問う出題ですので、普段からいろいろな文章を読み、考え、書く習慣をつけておくことが大切です。同時に設問の要求することを正確に読みとり、それに応えていくことも必要です。たとえば「抜き出し」なのか、自分の言葉で「まとめ」なのか、何字で書くことを要求されているのか、といった「きかれたことにきちんと答える」という姿勢がもっとも大切です。問6では「三十字以内で書く」ことを、問11では先述のように要素・問題・解決の方向に注目してまとめることを求めています。そのような要求にきちんと答えてください。そして繰り返し出てくる表現はキーワードとしてしっかり押さえましょう。また、キーワードや字数の指定は「抜き出し」たり「まとめ」たりするための大きなヒントになります。